

世界が 懸念 していること

2024年11月

世界が懸念していること

イプソスの「世界が懸念していること」調査では、世界29か国で現在最も重要な社会問題や政治問題は何であると考えているのかを調査し、最新のスコアとその背景を10年分のデータをもとに探ります。

このグローバルサマリーレポートでは、世界中で最も懸念されていることを、自国が正しい方向/間違った方向のどちらに進んでいるかという人々の意見と共にご紹介しています。

調査結果のさらなる分析は、
www.ipsos.com
でもご覧いただけます。

詳細については、
Teodros.Gebrekal@ipsos.com
までお問い合わせください。

=Report_1175

主な調査結果

01. 犯罪とインフレが最大の懸念事項

今月は29か国で犯罪と暴力、インフレの2つが主要課題となっており、3分の1(32%)が懸念を表明しています。生活費の懸念は安定していますが、犯罪はわずかに増加しています。

02. 洪水でスペインの懸念が変化

スペイン東部で大洪水が発生して以来、スペインの懸念事項は汚職(スペイン国民にとって現在一番の懸念事項)と気候変動へと移り変わっています。

03. 日本における犯罪の懸念の高まり

日本で犯罪や暴力を回答する人の割合は、今年11月に18ポイント上昇し、過去最高の3分の1(32%)に達しています。

04. ポーランドでは生活費が優先事項

2021年12月以来、インフレはポーランド国民にとって最大の懸念事項となっています。今月も同様に、回答した人は8ポイント増加して44%となっています。

05. 医療はカナダ国民にとって大きな問題

医療は、懸念を表明した人が6ポイント増加して44%となり、カナダにとって最大の懸念事項となっています。

06. ペルー国民は悲観的

ペルーは、自国が正しい方向に向かっていると答えた人の数で、15か月連続して最下位です。今月はさらに4ポイント下落しています。

世界が懸念していること 2024年11月

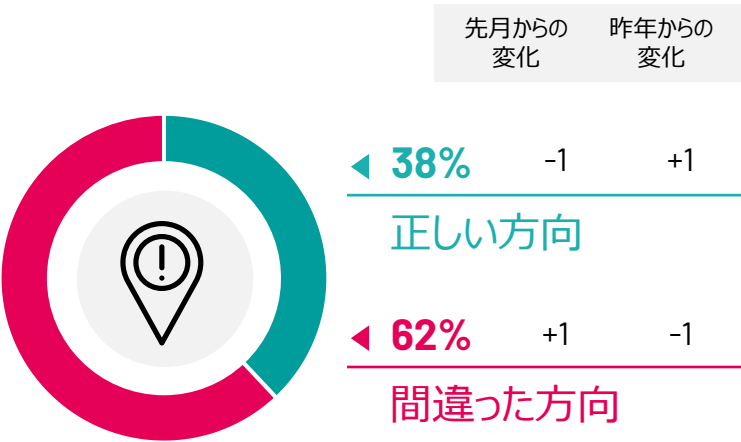
最も懸念していることトップ5

Q: 次の中から、あなたの国において最も懸念される事項を3つ選択してください。

		先月からの 変化	昨年からの 変化
犯罪と暴力	32%	+1	+2
インフレ	32%	=	-6
貧困と社会的不平等	30%	+2	=
失業	26%	-1	=
汚職、経済・政治スキャンダル	26%	+1	+1

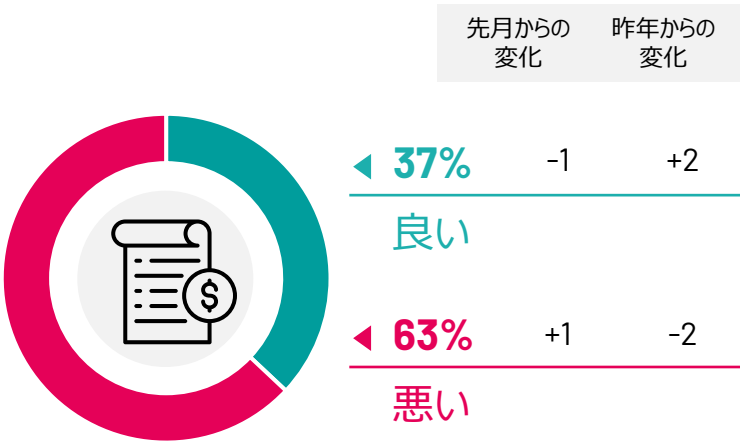
国の状況

Q: 全般的に見て、この国は正しい方向へ向かっていると思いますか、それとも間違った方向に向かっていると思いますか。



経済の状況

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



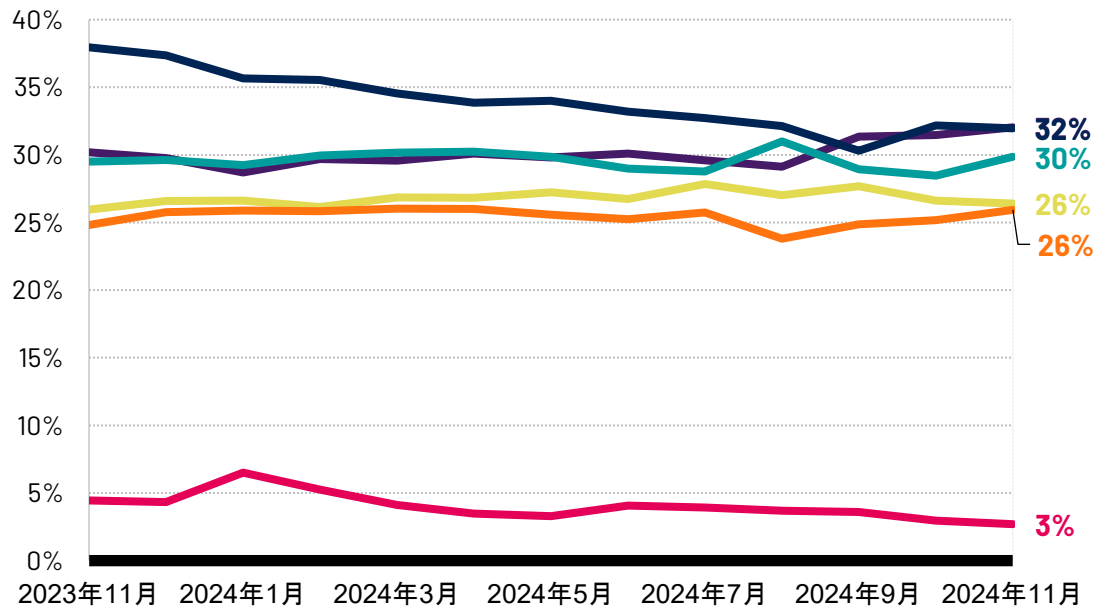
対象: 2024年10月25日から2024年11月8日までの、参加29か国の16〜74歳の23,320人の代表サンプル。
出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。フィルター: 国: 世界 | 現在のウェーブ: 2024年11月



世界が懸念していること 12か月のトレンド

最も懸念していることトップ5

Q: 次の中から、あなたの国において最も懸念される事項を3つ選択してください。



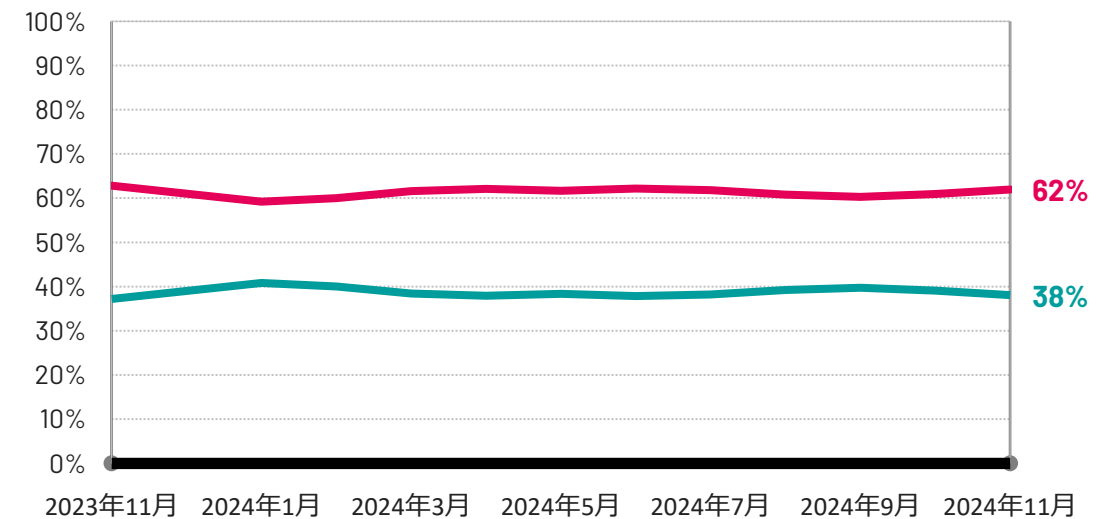
犯罪 インフレ 不平等 求人 汚職 コロナウイルス (Covid-19)

対象: 2024年10月25日から2024年11月8日までの、参加29か国の16~74歳の23,320人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。フィルター: 国: 世界 | 現在のウェーブ: 2024年11月

国の状況

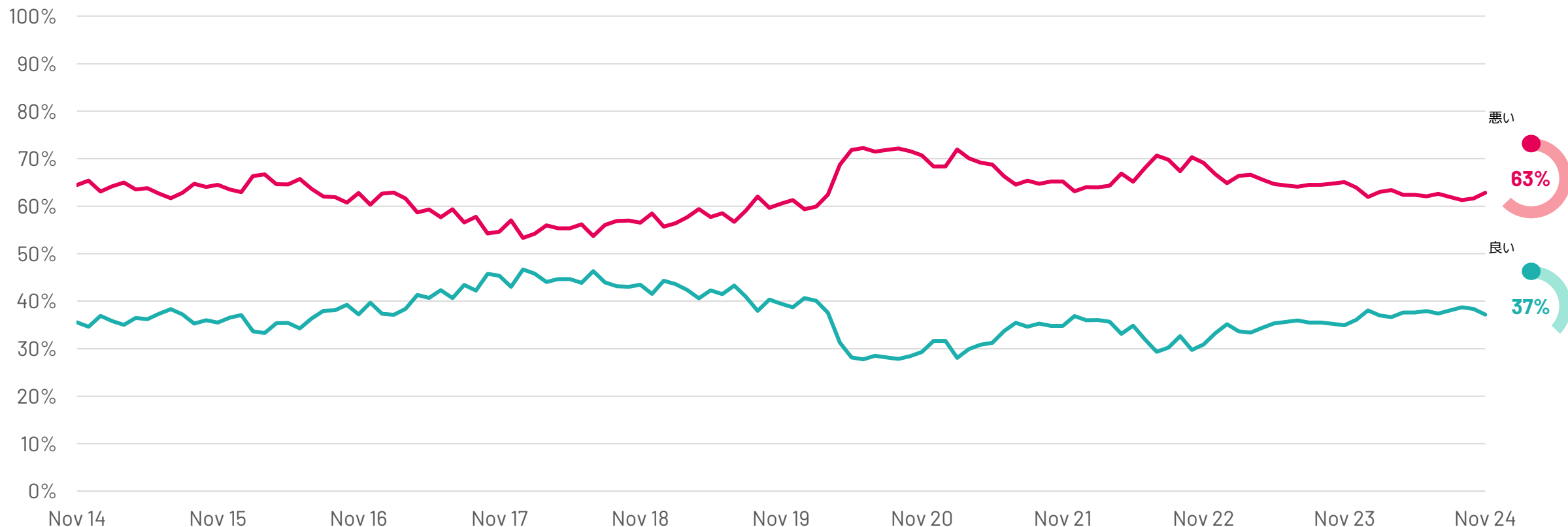
Q: 全般的に見て、この国は正しい方向へ向かっていると思いますか、それとも間違った方向に向かっていていると思いますか。



正しい方向 間違った方向

世界経済の現状

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。
(「とても良い」または「やや良い」と「とても悪い」または「やや悪い」の割合)



対象: 2024年10月25日から2024年11月8日までの、参加29か国の16〜74歳の23,320人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。フィルター: 国: 世界 | 現在のウェーブ: 2024年11月

各国が進む方向

全対象国

正しい方向/ 間違った方向 モニター

対象: 2024年10月25日から2024年11月8日までの、参加29か国の16~74歳の23,320人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

29か国のうち37%が、自国は正しい方向に向かっていると回答しています。これは先月からわずかに減少しており、1年前と比べてわずかに増加しただけです。

ペルーは再びリストの最下位となり、15か月連続で最も好調でない国となっています。11月には、国が正しい方向に向かっていると信じる人の割合がさらに4ポイント低下し、11%となっています。しかし、これはペルー国民にとって最低点ではありません。2022年4月には、国が正しい方向に向かっていると答えた人が7%でした。

ラテンアメリカの他の地域では、メキ

シコは先月の急落後、肯定的な見方が回復し、現在は10ポイント上昇して約58%となっています。

イプソスの現地調査は米国大統領選挙中に行われましたが、米国国民の方向性スコアにはほとんど変化が見られず、先月からわずかに減少しただけです。

15

ペルーは15か月連続で正しい方向スコアのリストの最下位となっています。

正しい方向/ 間違った方向 モニター

対象: 2024年10月25日から2024年11月8日までの、参加29か国の16〜74歳の23,320人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2024年11月

国

世界

インドネシア

シンガポール

マレーシア

インド

タイ

メキシコ

アルゼンチン

オーストラリア

ポーランド

ブラジル

南アフリカ

ベルギー

コロンビア

米国

イスラエル

スウェーデン

スペイン

英国

イタリア

カナダ

チリ

オランダ

日本

ドイツ

韓国

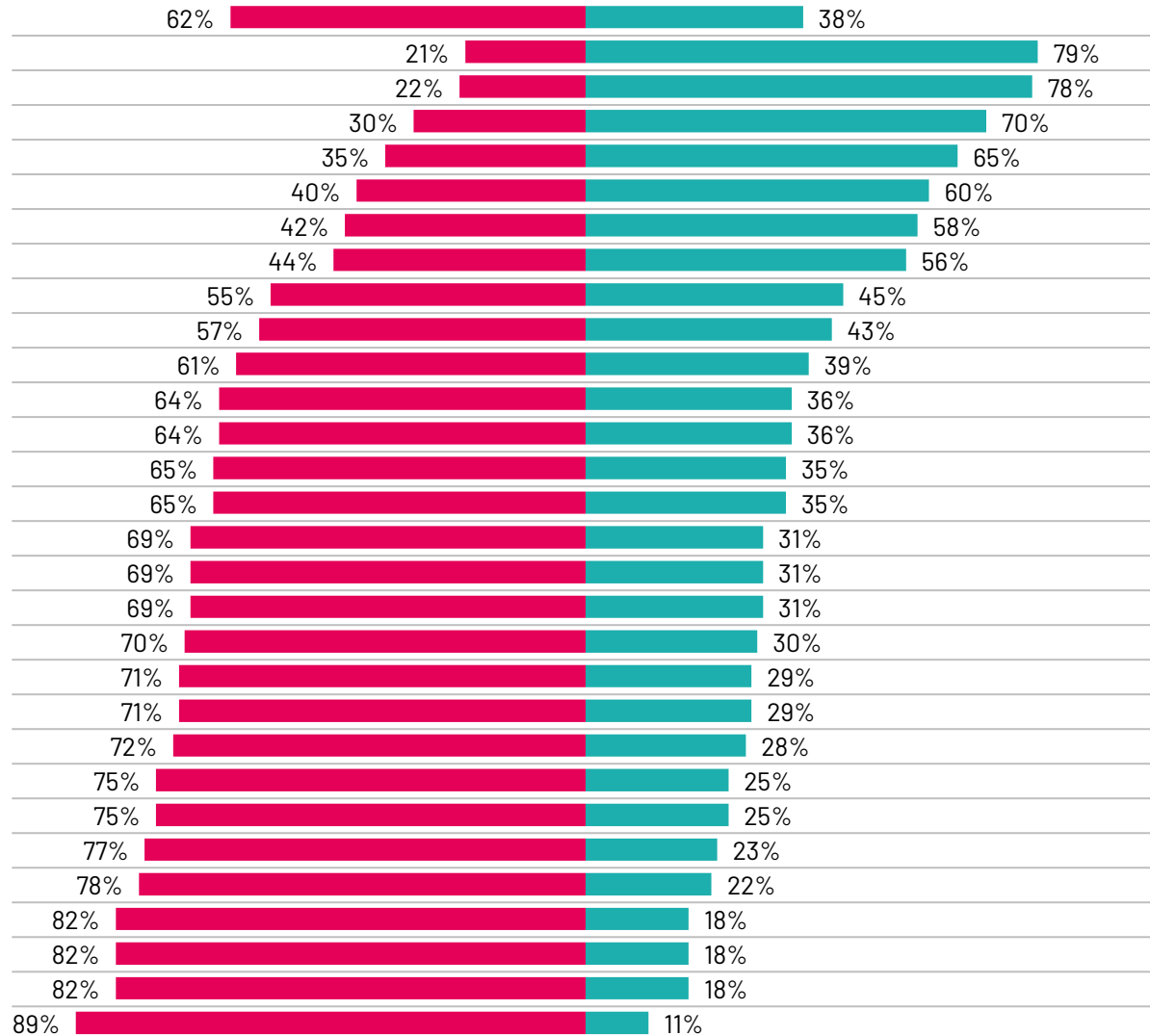
トルコ

ハンガリー

フランス

ペルー

Q:この国は正しい方向へ向かっていると思いますか、それとも間違った方向に向かっていると思いますか。(2024年11月)



正しい方向

間違った方向

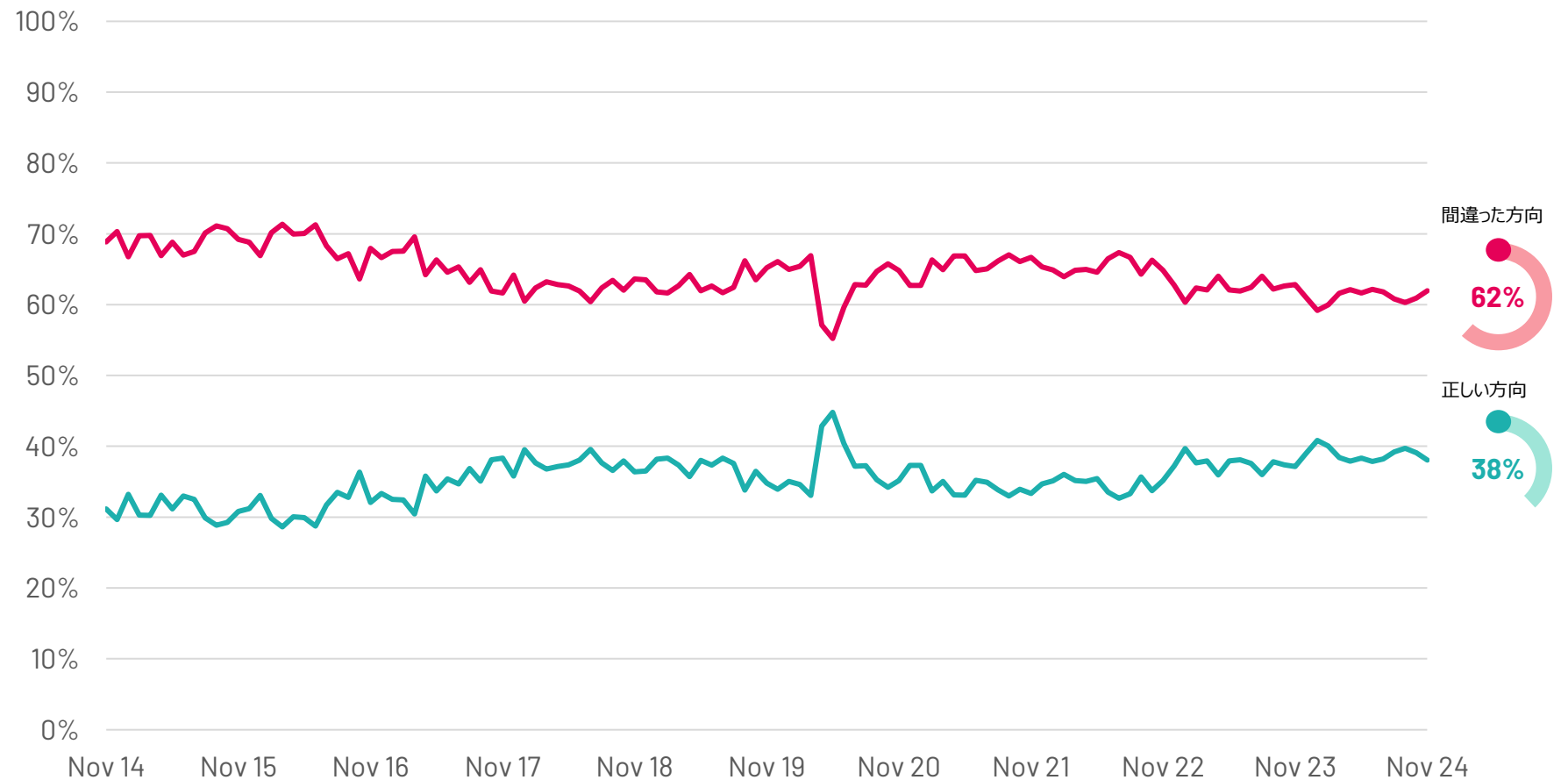
世界の正しい/ 間違った方向

世界各国の平均スコア

対象: 2024年10月25日から2024年11月8日までの、参加29か国の16~74歳の23,320人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Q: この国は正しい方向に向かっていていると思いますか、それとも間違った方向に進んでいると思いますか?



世界が懸念していることは？

ランキング上位の懸念事項

世界の懸念事項: 全リスト

対象: 2024年10月25日から2024年11月8日までの、参加129か国の16〜74歳の23,320人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2024年11月

インフレは今月も依然として29か国で最大の懸念事項であり、変化はないものの32%がインフレを挙げています。しかし、10月から犯罪と暴力の懸念が若干増加したため、現在は犯罪と暴力と並んでトップの座を占めています。犯罪や暴力に対する懸念がこれほど高かったのは、4年以上前の2020年3月で、当時は33%がこれを自国における最大の問題と見なしていました。

貧困と社会的不平等も先月からわずかに増加しており、現在30%がこれを自国が直面している最大の問題の一つとして挙げています。

一方、失業と汚職は26%で同率4

位となっています。

残りの懸念事項は、道徳の低下(11%)を除いてほとんど変化がなく、道徳の低下は12位から11位にわずかに上昇し、現在では国家間の軍事的な対立(10%)を上回っています。

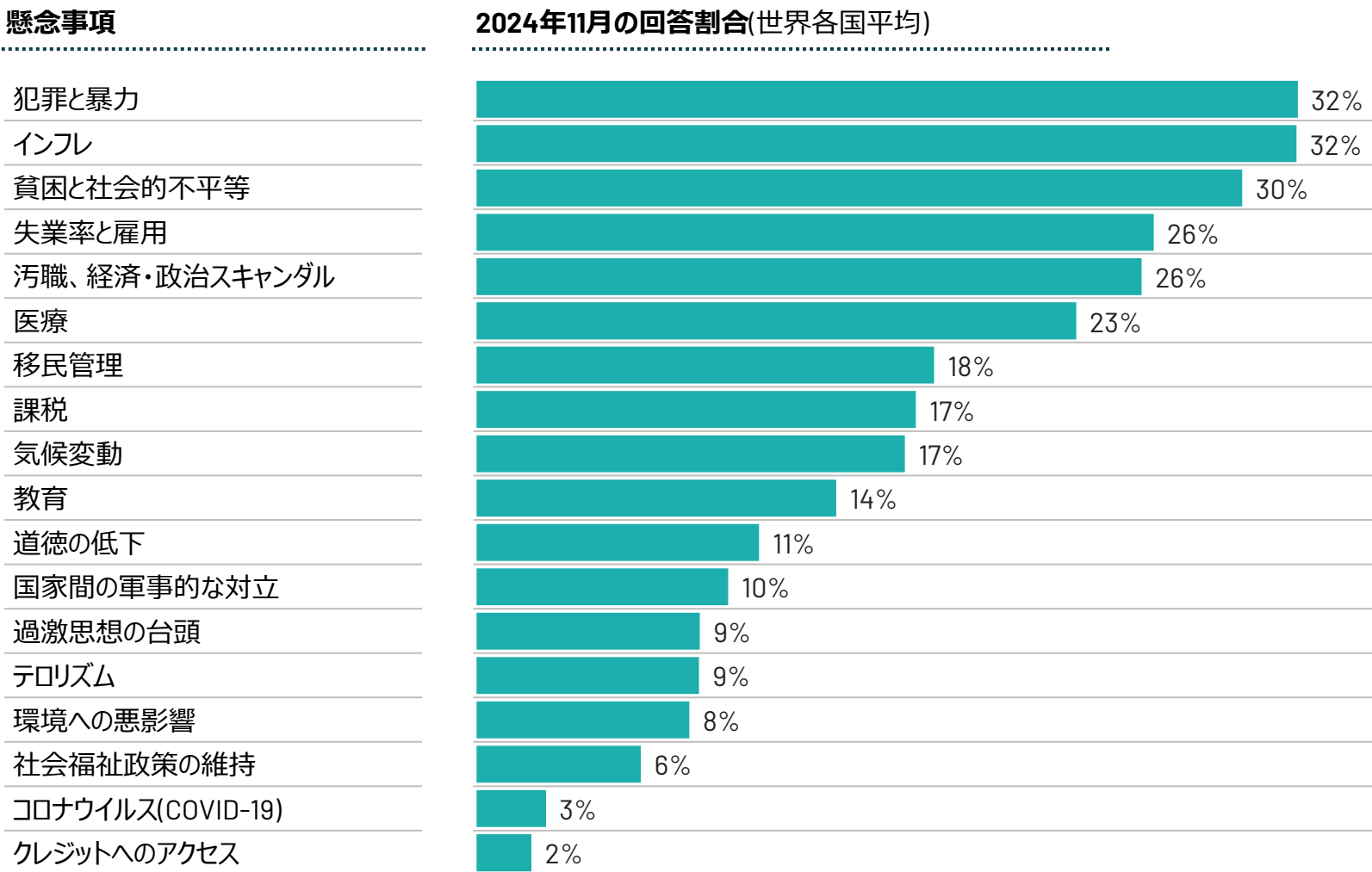
32%

インフレと犯罪と暴力は、どちらも32%が自国が直面している主要な問題の一つとして挙げています。

世界の懸念事項: 全リスト

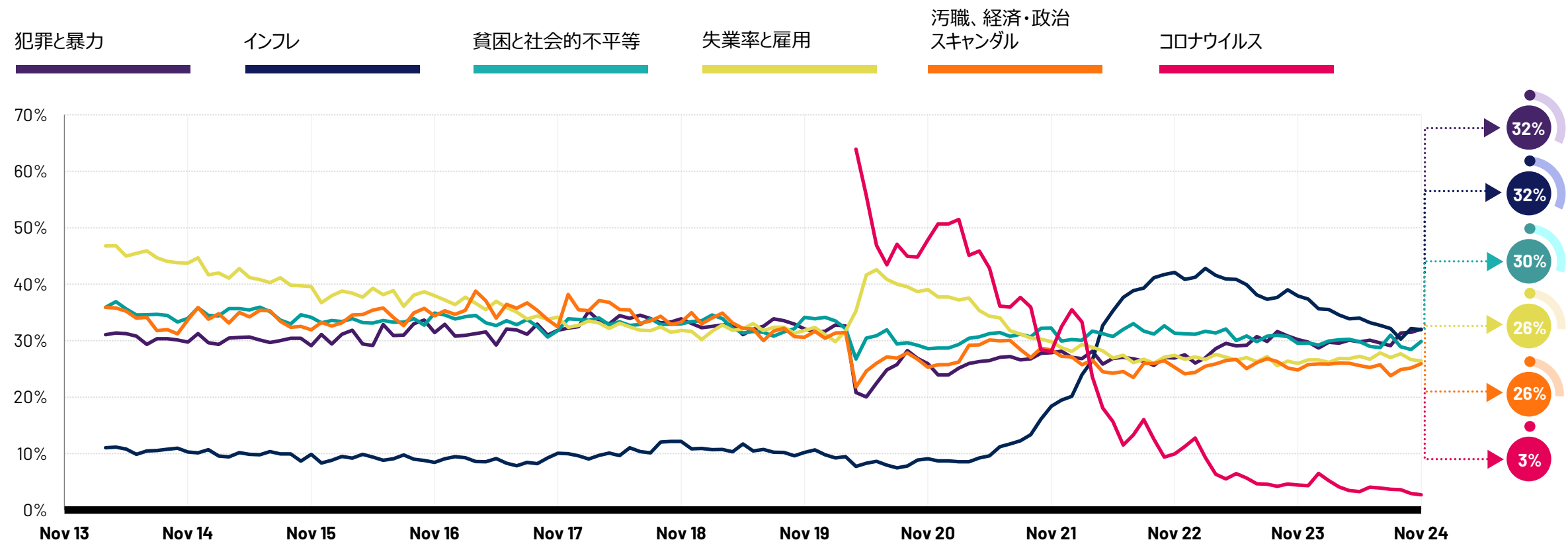
対象: 2024年10月25日から2024年11月8日までの、参加129か国の16〜74歳の23,320人の代表サンプル。
出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。
フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2024年11月

Q: 次の中から、あなたの国において最も懸念される事項を3つ選択してください。



世界の懸念: 長期トレンド

Q: 次の中から、あなたの国において最も懸念される事項を3つ選択してください。世界各国平均



対象: 2024年10月25日から2024年11月8日までの、参加29か国の16〜74歳の23,320人の代表サンプル。
出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。フィルター: 国: 世界 | 現在のウェーブ: 2024年11月



1. 犯罪と暴力

犯罪と暴力は、29か国で32%の人が自国が直面している主要な問題の一つとして挙げています。先月からわずかに上昇し、現在はインフレと同率タイです。懸念レベルも2020年3月の33%以来の高水準となっています。

日本では今月、犯罪に対する懸念が最も大きく増加し、記録的な水準に達しています。18ポイント上昇して3分の1(32%)となり、これは昨年の同時期より17ポイント高く、過去10年間で最高のスコアとなっています。

トルコも7ポイント上昇して39%となり、過去最高を記録しています。前

回これほど高かったのは、2018年7月にスコアが40%を記録したときです。

犯罪と暴力が最大の懸念事項となっている国:

- チリ(63%)
- コロンビア(42%)
- スウェーデン(62%)
- フランス(32%)
- メキシコ(59%)
- ブラジル(42%)

32%

が、**犯罪と暴力**は自国が直面している重要な問題の一つだと答えています。

対象: 2024年10月25日から2024年11月8日までの、参加29か国の16~74歳の23,320人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

1. 犯罪と暴力

対象: 2024年10月25日から2024年11月8日までの、参加129か国の16〜74歳の23,320人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2024年11月

国

犯罪と暴力を懸念していると回答した割合

国	犯罪と暴力を懸念していると回答した割合	先月からの変化	12か月の変化
世界	32%	+1	+2
ペルー	65%	-1	+8
チリ	63%	=	+5
スウェーデン	62%	-1	-5
メキシコ	59%	+3	+1
南アフリカ	56%	=	+1
コロンビア	42%	+5	+1
ブラジル	42%	+1	+1
トルコ	39%	+7	+17
アルゼンチン	38%	+3	-7
フランス	32%	-6	+8
オーストラリア	32%	=	+3
日本	32%	+18	+17
マレーシア	30%	+1	+9
ドイツ	29%	-2	+6
米国	28%	-4	=
イスラエル	28%	-4	-7
イタリア	27%	-3	+4
英国	26%	+1	+2
ベルギー	25%	-1	=
タイ	24%	-1	+1
インド	23%	-4	-4
カナダ	23%	+2	+5
オランダ	23%	+2	=
インドネシア	20%	+1	+2
スペイン	18%	-2	+1
韓国	17%	-1	-8
シンガポール	9%	-1	-10
ハンガリー	8%	=	+1
ポーランド	7%	-1	-1

2. インフレ

インフレへの懸念は29か国平均で32%で安定しています。今では犯罪と暴力と並んで1位です。今年の同時期、インフレ懸念は現在よりも6ポイント高かったです。

インフレは2021年12月に医療を上回って以来、ポーランドの最大の懸念事項となっています。今月も同様に、ポーランドでは懸念が8ポイント上昇し、割合は44%となっています。

同様に、インフレを選択したメキシコ国民の数は7ポイント増加して39%となり、2023年5月以来の高水準となっています。当時、メキシコ国内の懸念は41%でした。

対象: 2024年10月25日から2024年11月8日までの、参加29か国の16~74歳の23,320人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

32%

が、**インフレ**は自国が直面している重要な問題の一つだと答えています。

インフレが最大の懸念事項となっている国:

- シンガポール (63%) • インド (44%)
- オーストラリア (50%) • ポーランド (44%)
- 米国 (50%)
- トルコ (45%)

2. インフレ

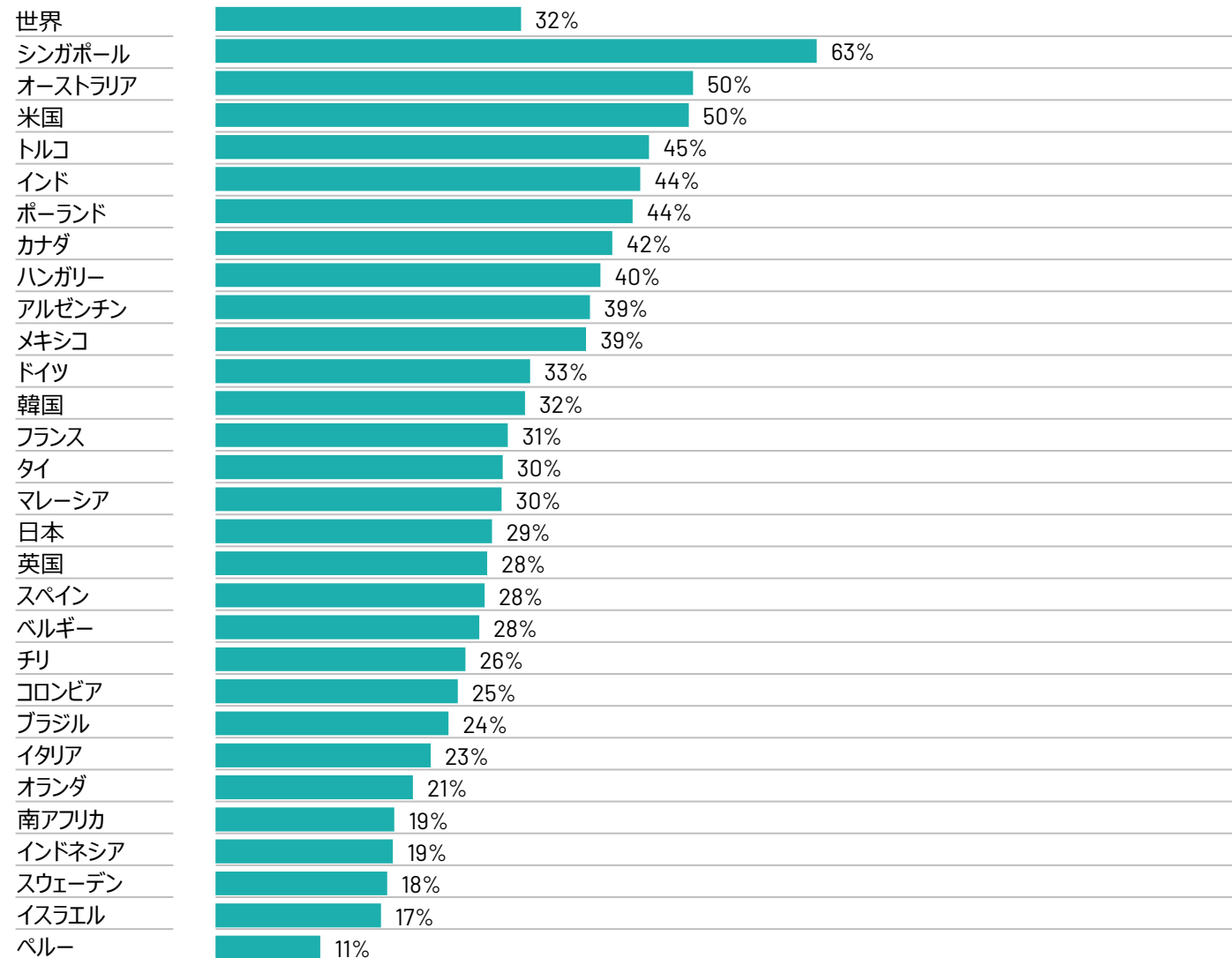
対象: 2024年10月25日から2024年11月8日までの、参加129か国の16～74歳の23,320人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2024年11月

国

インフレを懸念していると回答した割合



先月からの
変化

12か月の
変化

=	-6
+7	+10
+3	+2
-1	+6
-10	-10
-3	-2
+8	-10
-9	-15
+5	=
-7	-29
+7	+7
+6	-5
=	-4
-2	-9
=	-5
+5	-7
+2	-2
-5	-11
-1	-7
+3	=
+1	-17
+2	-11
+1	+4
=	-10
+2	-8
-6	-12
+4	-1
-3	-10
-8	+1
-8	-17

3. 貧困と社会的 不平等

対象: 2024年10月25日から2024年11月8日までの、参加29か国の16~74歳の23,320人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

貧困と社会的不平等に対する懸念は今月わずかに上昇し、29か国で30%となっています。

今月、ブラジルの懸念レベルは最も上昇し、7ポイント上昇して約38%となっています。しかし、これはブラジル国民にとって歴史的に重大なレベルではありません。これは10月の下落後の回復によるものと思われます。

今月はわずかに増加しただけですが、アルゼンチン国民の懸念は1年前より9ポイント上昇し、現在45%となっています。これはアルゼンチンにとって2番目に大きな懸念事項(失業に次ぐ)であり、過去最高スコアタイです(2024年2月と2019年12月にも

45%を記録しました)。

貧困と社会的不平等が最大の懸念事項となっている国:

- 日本(34%)
- オランダ(34%)
- ペルー(33%)

30%

が、**貧困と社会的不平等**は自国が直面している重要な問題の一つだと答えています。

3. 貧困と社会的 不平等

対象: 2024年10月25日から2024年11月8日までの、参加129か国の16～74歳の23,320人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2024年11月

国	貧困と社会的不平等を懸念していると回答した割合	先月からの 変化	12か月の 変化
世界	30%	+2	=
インドネシア	51%	+5	+6
アルゼンチン	45%	+1	+9
ハンガリー	44%	+3	+7
タイ	43%	-1	=
ブラジル	38%	+7	-2
南アフリカ	35%	+5	+1
日本	34%	+1	-4
オランダ	34%	+2	-4
ペルー	33%	+2	+5
トルコ	32%	+1	+1
コロンビア	32%	+4	-2
ドイツ	31%	+6	-3
マレーシア	29%	-2	-4
英国	28%	+1	-4
スペイン	27%	+3	+2
カナダ	27%	+2	-1
ベルギー	27%	-6	=
イタリア	27%	+2	+1
オーストラリア	27%	=	-1
フランス	26%	+1	+3
メキシコ	26%	-2	-1
チリ	24%	-5	-2
イスラエル	23%	+1	+2
韓国	22%	+3	-7
ポーランド	22%	+3	+6
スウェーデン	21%	+2	=
米国	20%	+4	+2
インド	19%	-1	-1
シンガポール	18%	=	+1

4.失業率と雇用

対象: 2024年10月25日から2024年11月8日までの、参加29か国の16~74歳の23,320人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

29か国全体で、失業が自国が直面している最大の問題の一つであると答えた人の割合はわずかに減少し、26%となっています。

38か月連続で、インフレがアルゼンチンの最大の懸念事項でした。2024年8月には失業と入れ替わり最大の懸念事項となり、それ以来、両者の間で懸念トップが入れ替わっています。今月は失業への懸念が4ポイント上昇し、回答者の半数(49%)が失業を挙げ、再びトップとなりました。ちなみに、これは昨年の同時期よりも18ポイント高いスコアです。

同様に、イタリアのスコアは6ポイント

上昇して3分の1(34%)となり、同国で2番目に高い懸念事項となっています。

失業率と雇用が最大の懸念事項となっている国:

- 南アフリカ(66%)
- アルゼンチン(49%)

26%

が、**失業率と雇用**は自国が直面している重要な問題の一つだと答えています。

4.失業率と雇用

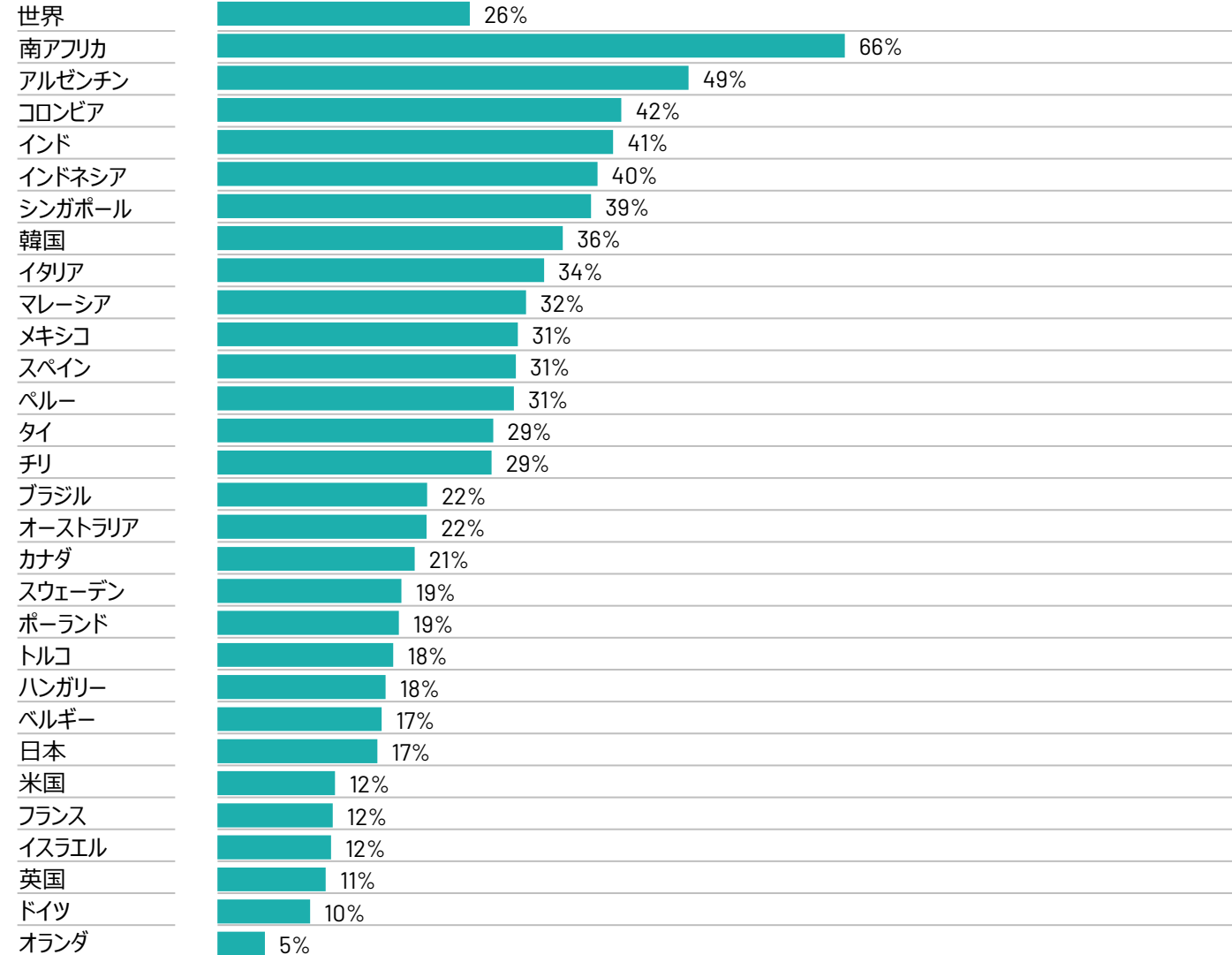
対象: 2024年10月25日から2024年11月8日までの、参加129か国の16〜74歳の23,320人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2024年11月

国

失業を懸念していると回答した割合



先月からの
変化

12か月の
変化

-1	=
-1	+3
+4	+18
+3	-4
-3	-3
-11	-1
+3	+7
+1	-5
+6	-1
-2	-6
-2	-4
-3	-8
-7	-3
+5	+5
-2	-5
+1	-5
+2	+5
+1	+3
-3	+7
-1	+8
-3	-3
+4	+4
-1	+3
=	-3
-2	+1
+4	+3
+2	=
-2	-2
=	+1
+1	-4

5. 汚職、経済・政治スキャンダル

対象: 2024年10月25日から2024年11月8日までの、参加29か国の16~74歳の23,320人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

29か国で4人に1人(26%)が汚職、経済・政治スキャンダルについて懸念を表明しています。この数字は先月および12か月前と比べてわずかに増加しています。

スペインで汚職が最大の問題だと答えた人の割合は今月7ポイント上昇し、1年前より16ポイント上昇しています。現在、10人中3人強(31%)が汚職を回答しており、これは2021年7月に33%を記録して以来、3年以上ぶりの高水準となっています。

同様に、ハンガリー(52%、+11pp)、トルコ(25%、+10pp)、日本(24%、+10pp)の3か国はいずれも昨年の同時期より10ポイント以上高いスコア

となっています。

汚職、経済・政治スキャンダルが最大の懸念事項となっている国:

- インドネシア(52%) • 韓国(39%)
- マレーシア(45%) • スペイン(31%)
- タイ(45%)

26%

が、**汚職、経済・政治スキャンダル**は自国が直面している重要な問題の一つだと答えています。

5. 汚職、経済・政治スキャンダル

対象: 2024年10月25日から2024年11月8日までの、参加129か国の16～74歳の23,320人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2024年11月

国

汚職、経済・政治スキャンダルを懸念していると回答した割合

国	汚職、経済・政治スキャンダルを懸念していると回答した割合	先月からの変化	12か月の変化
世界	26%	+1	+1
インドネシア	52%	-1	-7
ハンガリー	52%	+2	+11
ペルー	47%	-2	-3
南アフリカ	46%	+5	-4
マレーシア	45%	-2	-4
タイ	45%	+4	+5
韓国	39%	+4	+6
チリ	35%	+1	+7
コロンビア	33%	-6	-2
スペイン	31%	+7	+16
ブラジル	27%	+2	=
インド	26%	+2	+1
トルコ	25%	+3	+10
ポーランド	24%	-8	-6
日本	24%	+2	+10
アルゼンチン	23%	+3	-8
メキシコ	23%	+2	+1
イスラエル	21%	-2	-5
米国	21%	+5	=
イタリア	14%	+1	+2
シンガポール	13%	+3	-2
英国	13%	-1	-2
オーストラリア	12%	+1	+1
ベルギー	11%	-2	-5
カナダ	11%	-1	+1
スウェーデン	11%	-1	+4
フランス	10%	+2	+3
ドイツ	9%	-1	=
オランダ	7%	=	+1

6. 医療

対象: 2024年10月25日から2024年11月8日までの、参加29か国の16~74歳の23,320人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

今月も医療は変わりありませんが、懸念のレベルは1年前よりわずかに高まっています。

韓国の医療に対する懸念は先月記録的なレベルに達した後、13ポイント低下して落ち着きました。とはいえ、このスコアは今年これまでのスコアより14ポイント高く、今月のスコアは韓国で過去3番目に高いスコア(21%)となっています。

2022年3月以来初めて、医療がインフレを上回り、カナダ国民の最大の懸念事項となっています。過去1年半にわたりインフレが一貫して最大の懸念事項であったが、医療に対する懸念は急激に高まり、今月は6ポイント増加し、回答者の44%が医療を最大の懸念事項としています。

同様に、懸念を表明するポーランド国民の数も8ポイント増加し、インフレをもう少しで上回るレベルで、43%が問題だと述べています。これは2023年10月以来の最高値(同じく43%)です。

医療が最大の懸念事項となっている国:

- ハンガリー (59%)
- 英国 (44%)
- カナダ (44%)
- イタリア (37%)

23%

が、**医療**は自国が直面している重要な問題の一つだと答えています。

6. 医療

対象: 2024年10月25日から2024年11月8日までの、参加129か国の16〜74歳の23,320人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2024年11月

国

医療を懸念していると回答した割合

国	医療を懸念していると回答した割合	先月からの 変化	12か月の 変化
世界	23%	=	+3
ハンガリー	59%	-6	+5
カナダ	44%	+6	+5
英国	44%	+3	+4
ポーランド	43%	+8	+8
ブラジル	37%	-2	=
イタリア	37%	+4	+8
スペイン	32%	+1	+7
オーストラリア	32%	+1	=
オランダ	29%	-5	-4
シンガポール	28%	-2	+2
フランス	25%	-1	+6
米国	23%	+1	+2
スウェーデン	23%	=	+6
韓国	21%	-13	+14
ベルギー	21%	+7	+5
コロンビア	20%	+1	+6
ドイツ	20%	+1	+4
メキシコ	19%	+2	+3
チリ	17%	+4	+5
ペルー	17%	+2	+1
アルゼンチン	15%	+2	+4
南アフリカ	13%	-2	+4
インド	12%	-1	+2
マレーシア	10%	+1	+1
日本	9%	-2	-3
タイ	9%	+1	=
インドネシア	8%	+2	=
トルコ	5%	+1	+2
イスラエル	5%	=	+2

9. 気候変動

対象: 2024年10月25日から2024年11月8日までの、参加29か国の16~74歳の23,320人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

今月、29か国における気候変動に対する懸念は変わらず、昨年と同時期とも同じ状況です。

最近スペイン東部で発生した大洪水を受けて、スペインでは、気候変動を問題として挙げる人の割合は9ポイント上昇し、4分の1(26%)となっています。

一方、日本では、先月最大の懸念事項であった気候変動に対する懸念は大幅に減少しています。これを主な懸念事項と挙げた回答者の割合は8ポイント減少し、わずか27%となっています。気候変動は現在、日本にとって5番目に重大な懸念事項としてランク付けされていますが、

懸念のレベルは以前の月と比べると比較的高いまです。

気候変動が最大の懸念事項となっている国:

なし

17%

が、**気候変動**は自国が直面している重要な問題の一つだと答えています。

9. 気候変動

対象: 2024年10月25日から2024年11月8日までの、参加129か国の16〜74歳の23,320人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2024年11月

国

気候変動を懸念していると回答した割合

世界

17%

シンガポール

31%

オランダ

28%

日本

27%

イタリア

26%

スペイン

26%

フランス

24%

米国

22%

ベルギー

22%

ドイツ

21%

オーストラリア

21%

カナダ

20%

韓国

20%

英国

19%

インドネシア

18%

タイ

18%

スウェーデン

17%

メキシコ

17%

ブラジル

15%

コロンビア

14%

マレーシア

12%

インド

11%

ポーランド

11%

南アフリカ

11%

ペルー

7%

トルコ

6%

チリ

6%

アルゼンチン

4%

ハンガリー

4%

イスラエル

1%

先月からの
変化

12か月の
変化

=

=

+3

+1

+1

+1

-8

+1

+1

+4

+9

+4

+3

-3

-1

+3

+2

+6

-3

-1

-1

-6

-1

-4

-1

+1

-2

-2

+3

-9

-8

+2

-2

+3

=

-2

-6

+2

-5

+7

+1

+4

+2

+3

-3

-3

-2

=

=

-3

-3

-4

=

-6

-1

=

-3

-3

=

-1

14. テロリズム

対象: 2024年10月25日から2024年11月8日までの、参加29か国の16～74歳の23,320人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

29か国全体で、回答者の9%がテロリズムを回答しており、先月から変化はありませんが、12か月前よりわずかに低下しています。

イスラエルは先月からテロリズムに対する懸念レベルに変化がないにもかかわらず、依然としてテロリズムに対して最も懸念する国となっています。ほぼ半数(48%)が懸念を表明しているものの、これは1年前(10月7日の攻撃から1か月後)に比べると大幅に減少しています。2023年11月には懸念レベルは15ポイント上昇しています。

フランスでは1年前より22ポイント低下、ベルギーでは16ポイント低下す

るなど、世界の他の地域でも懸念は和らぎつつあります。

テロリズムが最大の懸念事項となっている国:

- イスラエル(48%)

9%

が、**テロリズム**は自国が直面している重要な問題の一つだと答えています。

14. テロリズム

対象: 2024年10月25日から2024年11月8日までの、参加129か国の16〜74歳の23,320人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2024年11月

国

テロリズムを懸念していると回答した割合

世界

9%

イスラエル

48%

トルコ

19%

インド

17%

コロンビア

14%

ペルー

13%

スウェーデン

13%

フランス

11%

ドイツ

11%

米国

10%

英国

8%

シンガポール

8%

ベルギー

8%

マレーシア

8%

メキシコ

8%

インドネシア

7%

チリ

7%

オランダ

6%

タイ

6%

スペイン

5%

ポーランド

4%

オーストラリア

4%

ブラジル

4%

イタリア

3%

南アフリカ

3%

韓国

3%

カナダ

2%

アルゼンチン

2%

日本

1%

ハンガリー

1%

先月からの
変化

12か月の
変化

=

-3

=

-15

=

+1

=

-4

-2

=

-3

+2

+2

-10

-4

-22

-2

=

+2

-4

+3

-1

-1

+1

-1

-16

-3

-2

+1

+2

=

-1

-1

-1

=

-2

+1

-5

+1

-7

=

-5

=

=

+2

+1

-1

-5

+2

+2

+1

+1

-1

-1

=

+1

-1

-3

=

-1

17. コロナウイルス (COVID-19)

今月も29か国における新型コロナウイルス感染症への懸念は変わらず、懸念を表明した人は3%となっています。

10人に1人に達する国はなく、最も高いレベルはマレーシア、メキシコ、シンガポールの7%です。

イプソスの「世界が懸念していること」調査では、懸念が3%を下回ったことはありません。

パンデミック発生から5年目を迎えるにあたり、イプソスは新型コロナウイルス感染症に対する意識を追跡し続けます。

対象: 2024年10月25日から2024年11月8日までの、参加29か国の16～74歳の23,320人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

コロナウイルス(COVID-19)が最大の懸念事項となっている国：

なし

3%

が、コロナウイルス(COVID-19)は自国が直面している重要な問題の一つだと答えています。

17. コロナウイルス (COVID-19)

対象: 2024年10月25日から2024年11月8日までの、参加129か国の16〜74歳の23,320人の代表サンプル。

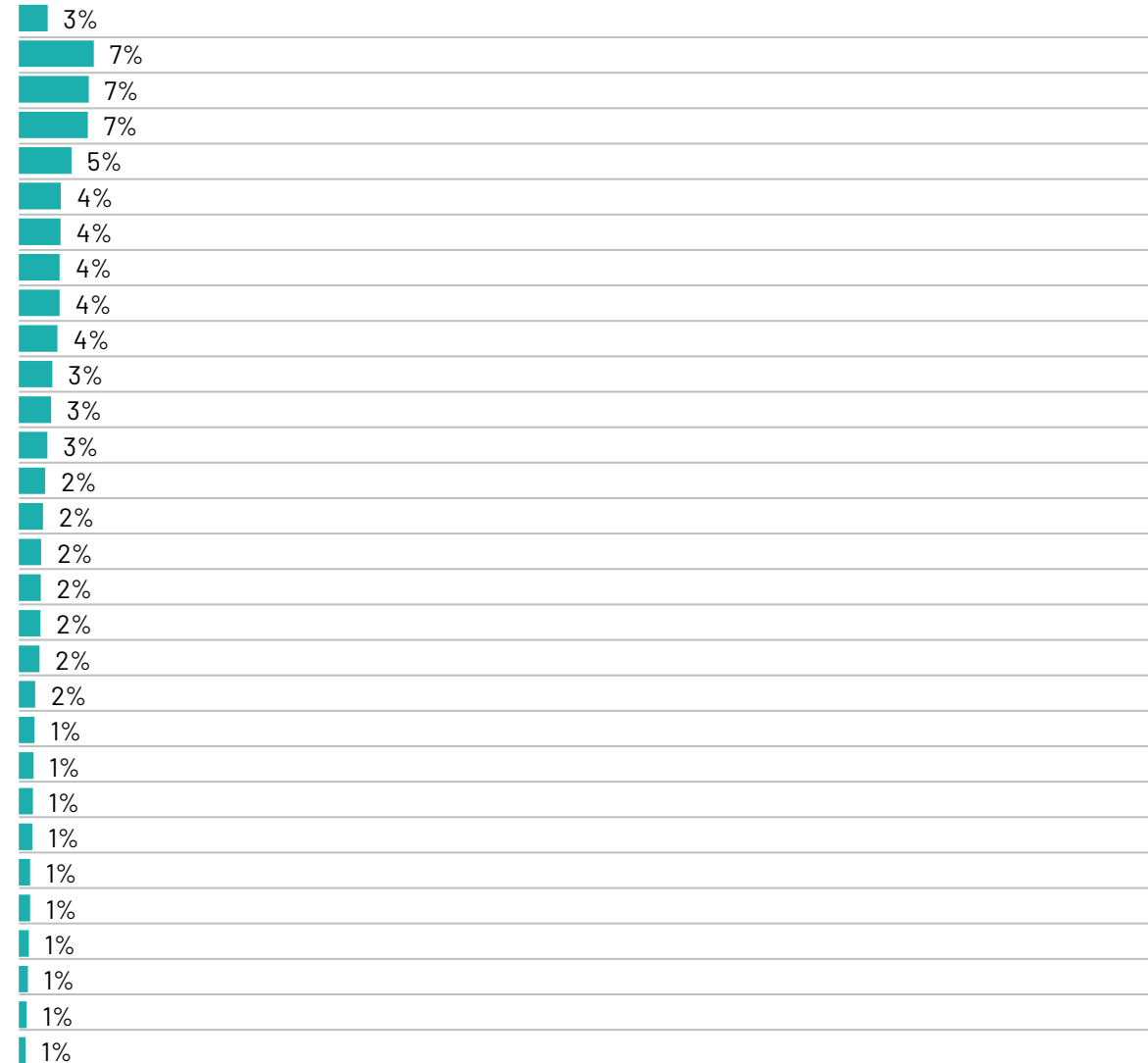
出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2024年11月

国

コロナウイルス(COVID-19)を懸念していると回答した割合

世界
マレーシア
メキシコ
シンガポール
インド
インドネシア
韓国
スウェーデン
タイ
日本
ペルー
オーストラリア
カナダ
チリ
米国
英国
スペイン
ポーランド
ドイツ
ベルギー
コロンビア
南アフリカ
フランス
オランダ
トルコ
ブラジル
イタリア
ハンガリー
アルゼンチン
イスラエル



先月からの 変化	12か月の 変化
=	-1
-3	-1
=	=
+2	-10
-1	-2
=	-6
+1	+1
+3	+2
-2	-8
-1	-6
+2	+2
-1	-3
=	-1
=	+1
-1	-4
=	-3
+1	-2
-1	=
=	-1
+1	-1
=	+1
=	-1
-1	-1
-1	-1
-2	-4
-2	-2
-1	-1
=	-2
=	+1
=	+1

経済への注目

自国の経済状況

イプソスの**世界が懸念していること調査**と並び、毎月実施されている**世界消費者信頼感調査**は、29カ国の一般消費者を対象に、国と個人のレベルにおける経済と金融について調査を実施しています。

以下のセクションでは、このデータの一部を用いて、今月の「世界が懸念していること調査」レポートの背景を説明しています。これは、国民が自国の現在の経済情勢をどのように評価しているかを示すものです。

詳細については、
Emilios.Louca@ipsos.com
までお問い合わせください。

現在の経済状況

29か国平均では、37%の人が自国の現在の経済状況を「良い」と評価しています。これは昨年の同時期と比べて2ポイント増加したことになります。

マレーシア(+24ポイント)と南アフリカ(+17ポイント)は前年比で最大の増加を記録し、アルゼンチン(+16ポイント)とポーランド(+15ポイント)がそれに続いています。

一方、昨年の同時期と比較すると、フランス(-10ポイント)、ドイツ(-9ポイント)、タイ(-7ポイント)では、経済に対するポジティブな感情が最も低下しています。

今月、ドイツの好景気スコアは先月から5ポイント低下し、過去最低を記録しています。一方、アルゼンチンは6年ぶりの好景気スコアを記録しています。

経済を最も懸念している上位国:

- **日本** (88%が「悪い」状態であると回答)
- **韓国** (87%)
- **フランス** (85%)
- **ハンガリー** (83%)
- **トルコ** (81%)

31%

ドイツでは、31%のみが国の現在の経済状況は良好であると回答しており、過去最低を記録しています。



対象: 2024年10月25日から2024年11月8日までの、参加29か国の16~74歳の23,320人の代表サンプル。

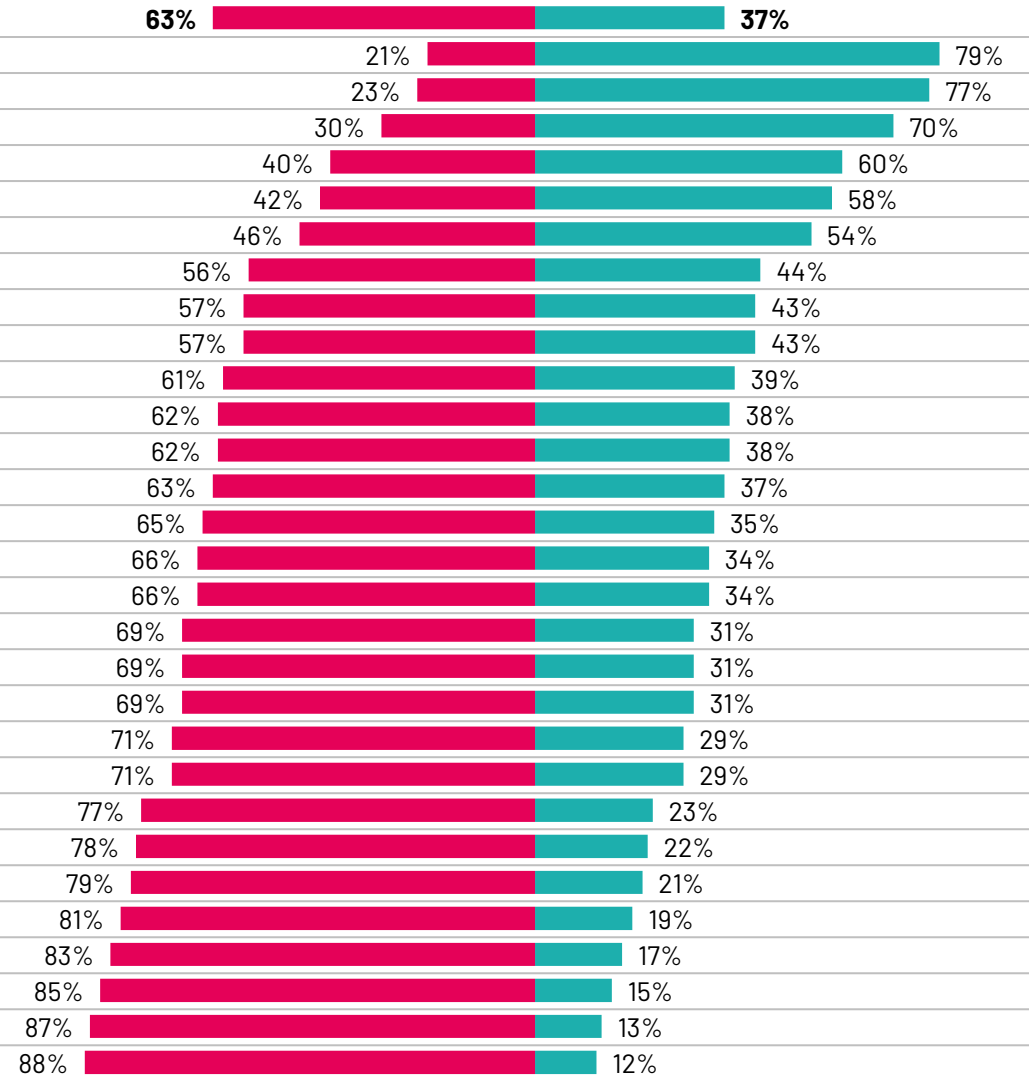
出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

現在の経済状況

対象: 2024年10月25日から2024年11月8日までの、参加129か国の16〜74歳の23,320人の代表サンプル。
出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。
フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2024年11月

国
世界
インド
シンガポール
マレーシア
オランダ
インドネシア
メキシコ
ポーランド
タイ
オーストラリア
スウェーデン
米国
ベルギー
イスラエル
ブラジル
スペイン
南アフリカ
チリ
ドイツ
カナダ
コロンビア
イタリア
英国
アルゼンチン
ペルー
トルコ
ハンガリー
フランス
韓国
日本

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



良い 悪い

先月からの 変化	12か月の 変化
-1	+2
-4	-2
-2	-1
-2	+24
-1	+10
+1	-3
+8	+1
-2	+15
-1	-7
-1	-4
-3	+12
-3	-1
-2	+1
+4	-5
-3	-5
-4	+4
-4	+17
+2	+5
-5	-9
-3	-2
+2	+10
-2	+1
-5	=
+4	+16
+2	+6
-1	-2
-2	-5
-1	-10
-6	-1
-4	-1

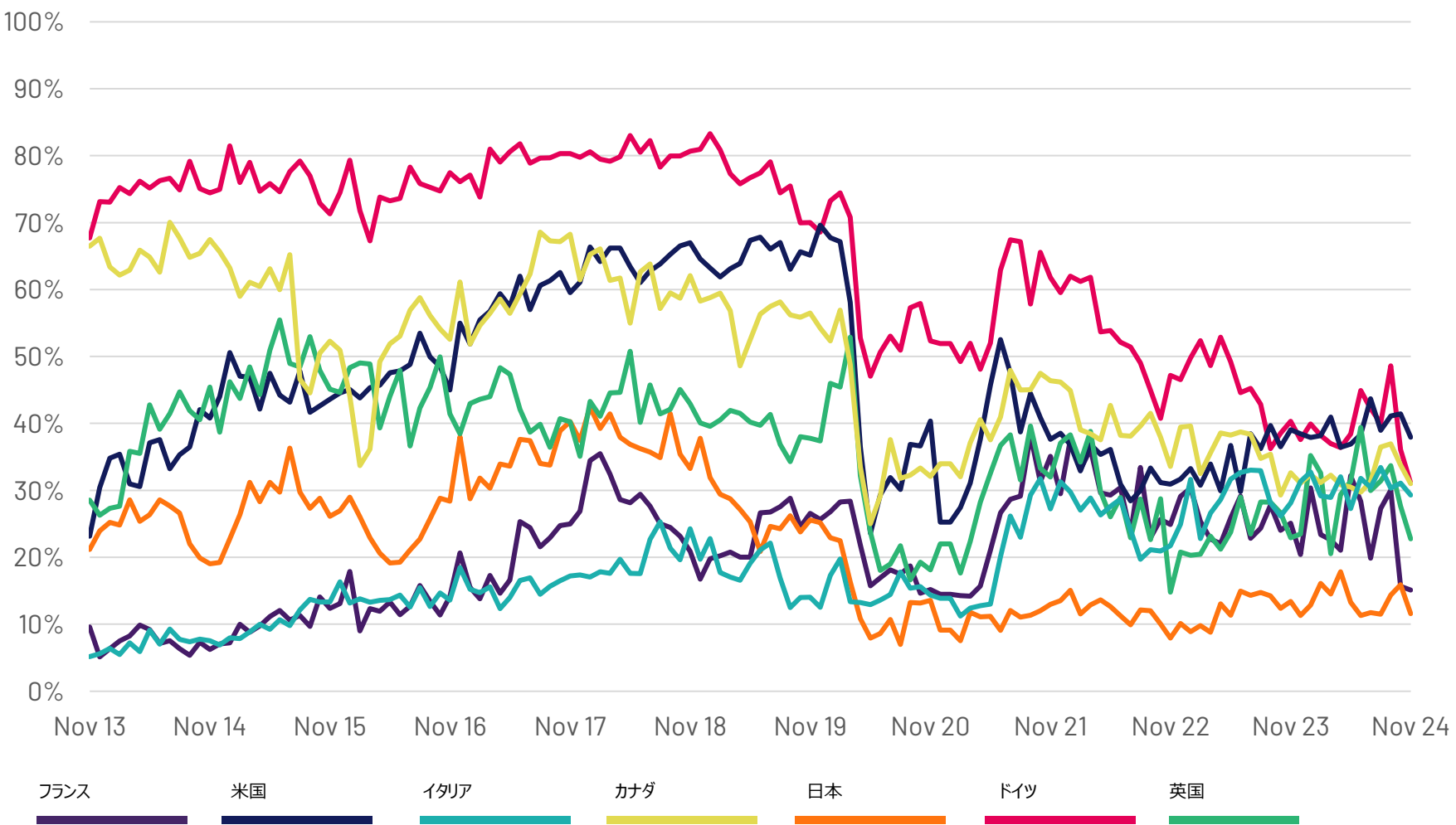


現在の経済状況

G7
%「とても良い」または「やや良い」

対象: 2024年10月25日から2024年11月8日までの、参加29か国の16〜74歳の23,320人の代表サンプル。
出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



現在の経済状況

アルゼンチン

%「とても良い」または「やや良い」

今月はアルゼンチンの好景気スコアが6年ぶりに20%を超えた月となりました(2018年4月は30%)。

対象: 2024年10月25日から2024年11月8日までの、参加29か国の16~74歳の23,320人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



現在の経済状況

カナダ

%「とても良い」または「やや良い」

対象: 2024年10月25日から2024年11月8日までの、参加29か国の16~74歳の23,320人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



現在の経済状況

フランス

%「とても良い」または「やや良い」

フランスの好景気スコアは現在、2021年4月以来の最低水準(14%)となっています。

対象: 2024年10月25日から2024年11月8日までの、参加29か国の16~74歳の23,320人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



現在の経済状況

ドイツ

%「とても良い」または「やや良い」

ドイツは先月から5ポイント低下し、過去最低の好景気スコアを記録しています。

対象: 2024年10月25日から2024年11月8日までの、参加29か国の16~74歳の23,320人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



現在の経済状況

英国

%「とても良い」または「やや良い」

対象: 2024年10月25日から2024年11月8日までの、参加29か国の16~74歳の23,320人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



現在の経済状況

イタリア

%「とても良い」または「やや良い」

対象: 2024年10月25日から2024年11月8日までの、参加29か国の16~74歳の23,320人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



現在の経済状況

日本

%「とても良い」または「やや良い」

対象: 2024年10月25日から2024年11月8日までの、参加29か国の16~74歳の23,320人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



現在の経済状況

マレーシア

%「とても良い」または「やや良い」

マレーシアの好景気スコアは昨年の同時点から24ポイント上昇しています。

対象: 2024年10月25日から2024年11月8日までの、参加29か国の16~74歳の23,320人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



現在の経済状況

米国

%「とても良い」または「やや良い」

対象: 2024年10月25日から2024年11月8日までの、参加29か国の16~74歳の23,320人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



調査手法

この29か国グローバルアドバイザー調査は、イプソスオンラインパネルシステムを通じて、2024年10月25日から2024年11月8日の間に、カナダ、イスラエル、マレーシア、南アフリカ、トルコ、米国の18〜74歳、インドネシアとタイの20〜74歳、シンガポールの21〜74歳、その他の国の16〜74歳の23,320人を対象に実施しています。

「世界各国平均」は、調査が実施されたすべての国における平均結果を反映しています。各国の人口規模に合わせて調整されておらず、全体的な結果を示すことを意図したものではありません。

サンプルは、オーストラリア、ベルギー、ブラジル、カナダ、フランス、ドイツ、英国、イタリア、日本、スペイン、スウェーデン、米国の各国で約1,000人以上、アルゼンチン、チリ、コロンビア、ハンガリー、インドネシア、イスラエル、マレーシア、メキシコ、オランダ、ペルー、ポーランド、シンガポール、南アフリカ、韓国、タイ、トルコの各国で約500人以上で構成されています。

インドのサンプルは約2,200人で構成され、そのうち約1,800人が対面で調査を受け、400人がオンラインで調査を受けています。

アルゼンチン、オーストラリア、ベルギー、カナダ、フランス、ドイツ、英国、ハンガリー、イタリア、日本、オランダ、ポーランド、韓国、スペイン、スウェーデン、米国のサンプルは、これらの国の75歳未満の一般成人人口の代表として考えることができます。

ブラジル、チリ、コロンビア、インド、インドネシア、マレーシア、メキシコ、ペルー、シンガポール、南アフリカ、タイ、トルコのサンプルは、一般人口よりも都市部に住み、教育水準が高く、裕福です。これらの市場の調査結果は、これらの人口のより「コネクテッド」なセグメントの見解を反映していると見なされるべきです。

インドのサンプルは、都市部の人口の大部分を代表しており、全国4つのゾーンにわたる大都市とティア1〜3の都市における社会経済階層A、B、Cを含んでいます。

人口統計のバランスを取り、サンプルの構成が最新の国勢調査データに基づく成人人口の構成を反映するようにするために、重み付けが採用されています。

イプソスオンライン世論調査の精度は、信頼区間を使用して計算され、1,000件の世論調査では ± 3.5 ポイント、500件の世論調査では ± 5.0 ポイントの精度となります。イプソスによる信頼区間の使用に関する詳細については、イプソスのウェブサイトをご覧ください。

結果の合計が100にならない場合、または「差」が実際より ± 1 多い/少ないように見える場合は、四捨五入、複数の回答、または「わからない」または未回答の回答の除外が原因である可能性があります。

これらの調査結果の公表は現地の規則および規制に従います。



THANK YOU

CONTACT:

Teodros.Gebrekal@ipsos.com

VISIT:

ipsos.com